

2013年10月22日
株式会社パスコ

(報道資料)

市場拡大に対応すべく空間情報の処理能力を増強 ～ パスコ空間情報処理センターの増床と人工衛星の受信アンテナを増設 ～

株式会社パスコ(本社:東京都目黒区東山、代表取締役社長:目崎 祐史、以下:パスコ)は、人工衛星や航空機等を使用し、高品質な空間情報を迅速に収集、その成果を加工・処理し、自治体や企業に向けた課題解決のためのソリューションを提供しています。

近年、インフラ管理や国土強靱化など、空間情報に関する注目度が益々高まる中、パスコでは更なる需要に応えるため、2012年から施設の増強に着手し、このたび、パスコ空間情報処理センターの新館と人工衛星データ受信局「沖縄地球局2号機」(共に沖縄県糸満市)が竣工を迎え、10月下旬に運用を開始する運びとなりました。パスコ空間情報処理センターの増床によりこれまでより多くのデータ処理が可能になるほか、沖縄地球局2号機の完成によって、パスコの人工衛星の受信施設は既に稼働している沖縄地球局1号機と北海道地球局を合わせて国内3局体制になり、日本全域で人工衛星からのデータを受信できる地球局ネットワークが強化されました。

パスコは今後も、防災や環境をはじめとする様々な分野で地球局ネットワークを活用し、空間情報を通じて安心安全な社会の構築に貢献してまいります。

■パスコ空間情報処理センターの概要

2006年12月の開設以来、人工衛星地球局の運用管理、画像処理、コンテンツ整備を行なっています。現在は180名の従業員が業務に従事しておりますが、年度内には新たに70人の雇用を計画しており、将来的には300人規模まで拡大を予定しています。

◇新館の概要

所在:沖縄県糸満市西崎町4-21-1(西崎工業団地内)

鉄骨造、2階建て(1階は駐車場)、延べ床面積約660㎡(既存の建物とあわせて約1,650㎡)

◇沖縄地球局2号機の概要

所在:パスコ空間情報処理センターに同じ

機能:「プレアデスPleiades」を始めとした地球観測衛星の撮影データの受信機能、その他、地球観測衛星の衛星運用機能と受信データの加工・処理機能

■パスコの衛星事業

パスコは、2007年の合成開口レーダーを搭載したドイツの商用人工衛星「TerraSAR-^{テラサール エックス}X」の直接受送信と撮影データの日本国内への独占販売権ならびに世界への販売権の取得から、衛星事業を本格化させ、以来、人工衛星を用いた測量や、人工衛星画像のデータ解析・判読処理を施した防災、農業、森林、環境などのリモートセンシングサービスを展開しています。

東日本大震災においても、「TerraSAR-X」のほか、光学衛星の撮影画像を活用して津波の浸水区域判読(推定)や湛水区域のモニタリングなどを独自に実施し、いち早く、関係各機関に対して解析結果等の情報提供を行いました。

■お問合せ先

(報道関係)

株式会社パスコ 基幹業務部 広報担当:03-6412-2800